

風を吹かせば桶屋が儲かる

ある昼下がり、お手洗いで用を足し終えた私が出会ったのは、懐かしの指導教官、M.H.先生。彼は言う「輝、ちょっと頼みたいことがあるんだけど。」嫌とは言えない。頼まれたのはそう、CanApple ニュースレターの執筆だ。主にアカデミアの方々が読むこのウィットの集合体に、はたして私は相応しいのか。アカデミアから離れ、主としては企業に所属する私が、これでよいのかと自問自答しながら作成した、プルスィアンブルーと光触媒にまつわるお話・・・